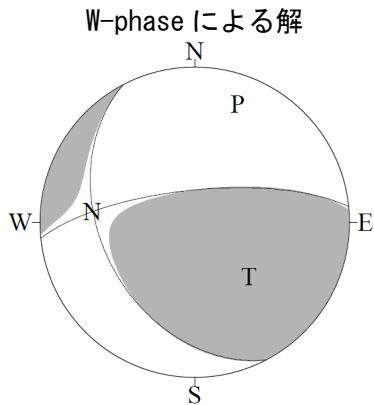


## 8月14日 ハイチの地震 (W-phase を用いた発震機構解析)

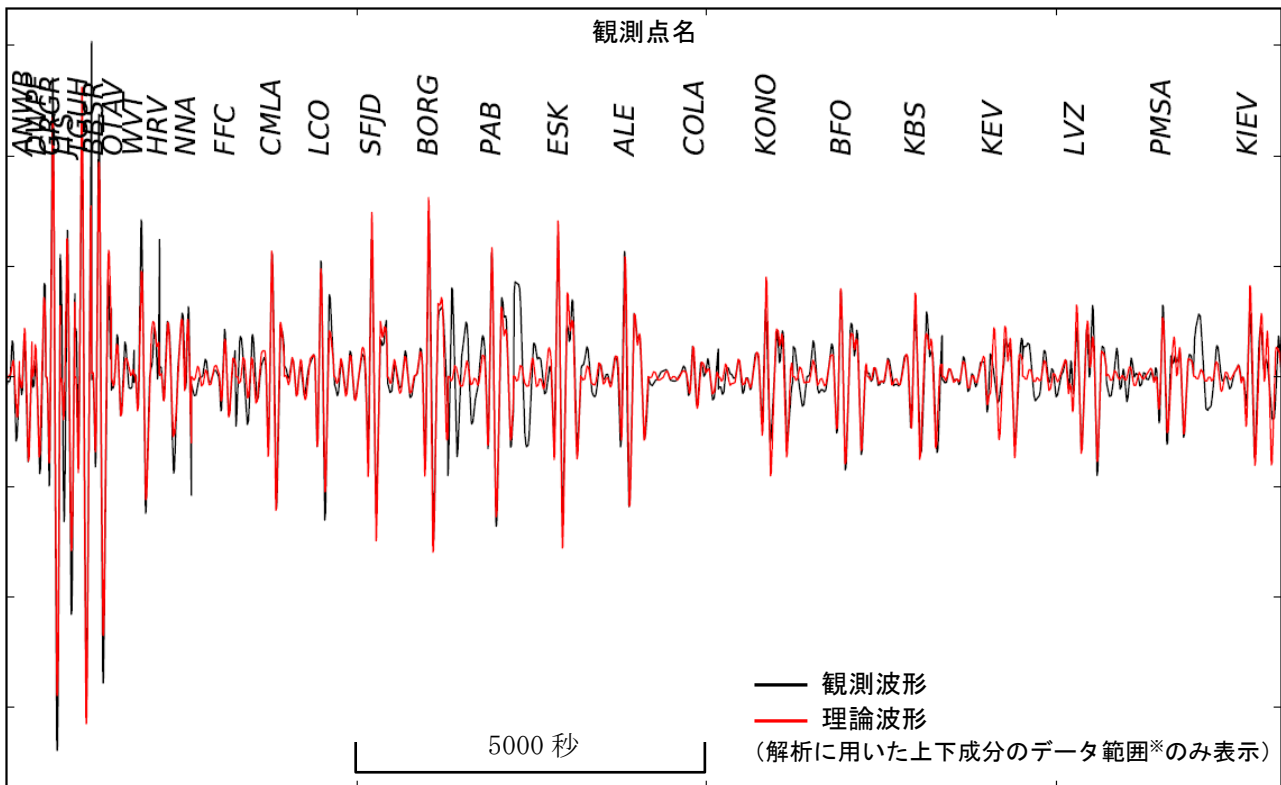


2021年8月14日21時29分(日本時間)にハイチで発生した地震についてW-phaseを用いた発震機構解析を行った。発震機構、 $M_w$ とも、他機関の解析結果とほぼ同様であり、 $M_w$ は7.2であった。なお、W-phaseの解析で求めた震源は $N18.5^\circ$ 、 $W73.6^\circ$ 、深さ10kmとなった。

W-phaseの解析では、震央距離 $10^\circ \sim 90^\circ$ までの26観測点の上下成分、36観測点の水平成分を用い、100~300秒のフィルターを使用した。

注) W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。

$M_w$	$M_0$	断層面解1 (走向/傾斜/すべり角)	断層面解2 (走向/傾斜/すべり角)
7.2	$7.97 \times 10^{19} \text{m}$	$152.4^\circ / 39.4^\circ / 152.7^\circ$	$264.2^\circ / 73.0^\circ / 53.9^\circ$



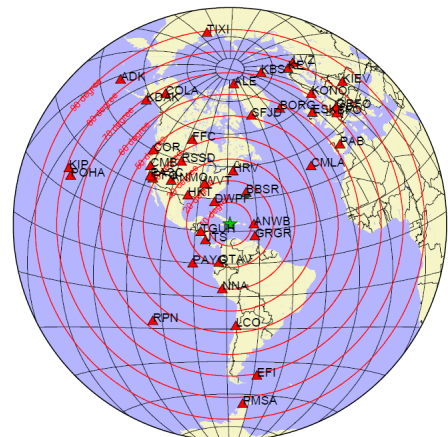
※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波を表示している。

(W-phaseに関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには、米国大学間地震学研究連合(IRIS)のデータ管理センター(DMC)より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及びRivera博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置